

第5学年 国語科 年間学習指導計画

学	月	単元名	教材名(小単元)	目標	配時	評価					言語活動 <言語活動例>			
						教材	単元	関意	話聞	書く		読む	言語	
1 学期	4 月	1 音読しよう	だいじょうぶ だいじょうぶ	・人物の思いが伝わるように音読する。	4		○			○		【関】朗読に興味を持ち、楽しんで朗読しようとする。 【読】作品から読み取ったことが表れるように工夫して朗読している。	物語を音読する。C(1)ア	
			図書館へ行こう	・日本十進分類法について知り、本を探すときに請求記号や本の配架を活用する。	1	8	○				○		【関】日本十進分類法の分類を手がかりに、本を探そうとしている。 【読】請求記号の仕組みと図書館の本の配架を知り、自分が読みたい本を探すときに役立っている。	
			一つの言葉から	・連想によって言葉を広げ、詩を書く。	3		○		○				【関】経験や出来事を思い出して文章を書こうとする。 【書】一つの言葉を手がかりにして題材を探し、構成や表現を工夫して書いている。	発想を広げて詩を書く。B(1)ア
	5 月	2 筆者の考えをまとめて伝え合おう	動物の体と気候	・文章の構成を考えながら、要旨を読み取る。	6		○				○		【関】動物の体と気候との関係に興味を持ち、進んで感想を出したり構成に注意して要旨を考えたりしようとする。 【読】文章の構成を考えながら内容を読み取り、要旨をとらえている。	文章の要旨をまとめて交流する。C(1)ウ
			文の組み立てに気をつけよう 漢字の練習	・言葉の係り受けに理解を深め、意味が正確に伝わる文を書くことの大切さを知る。	2	11	○					○	【関】言葉の係り受けに関心を持ち、注意して文を読んだり書いたりしようとする。 【言】修飾・被修飾の関係をおさえ、意味が正確に伝わる文の組み立てについて理解している。	
			意見と理由を聞き取ろう	・ふさわしい理由を挙げて意見を述べているか、考えながら聞き取り、共通点に着目して整理する。	3		○	○					【関】理由が意見に対してふさわしいものかどうか、考えながら聞こうとする。 【話聞】意見と理由を正しく聞き取り、理由がふさわしいものであるかを判断している。	複数の人の発言を整理する。A(1)エ
		3 物語の山場をとらえよう	世界でいちばんやかましい音	・「設定」「展開」「山場」「結末」の部分を確認して、物語の構成をとらえる。	7	7	○		○	○		【関】物語に興味を持って読み、構成をとらえようとする。 【書】自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えて書いている。	物語の構成を考えながら、物語を書く。B(1)イ <物語の作成>	

6月	4 書き手の意図を考えながら新聞を読もう	新聞記事を読み比べよう	・二つの新聞記事を読み比べて、書き手の意図を読み取る。	6		○		○	○	【関】新聞記事には意図があることを理解し、書き手の意図を読み取る。【読】写真や見出しの効果を考えながら読み比べ、記事の内容やねらいを読み取っている。	新聞記事を読み比べ、書き手の意図について考える。C(1)イ
		漢字の由来に関心を持とう 漢字の練習	・漢字の由来について知り、漢字の四つの成り立ちを理解する。	2	17	○			○	【関】漢字の由来に関心を持ち、成り立ちについて知ろうとする。【言】四種類の漢字の成り立ちについて理解している。	
		立場を決めて討論をしよう	・互いの主張とその理由を明確にしなが、計画的に討論をすることができる。	9		○	○			【関】自分の立場を明確にして、興味を持って討論に参加しようとしている。【話聞】互いの主張やその理由を明確にして、考えの違いを尊重しながら、討論をしている。	討論をする。A(1)オ
7月		本は友達	・多くの本や文章を読むことの楽しさを知り、読書の範囲を広げる。	2	-	○			○	【関】自分の興味にあった本を探して読もうとする。【読】読書案内や図書紹介を利用し、自分が読みたい本を選んで読んでいる。	多様な本を読む。C(1)カ
		詩を味わおう	紙風船 水のころ	・情景や心情を思い浮かべながら、詩や俳句を声に出して読み味わう。	2	-	○			○	【関】文語調の詩や俳句のリズムを楽しもうとする。【読】詩や俳句の情景や心情を思い浮かべながら声に出して読んでいる。
9月		資料を生かして考えたことを書こう	・資料を生かして、自分の考えたことが伝わるように書く。	5	-	○			○	【関】資料から情報を読み取り、読み取った情報を基にポスターを完成させようとしている。【書】資料から必要な情報を取り出し、資料から引用したこと、自分が考えたことが明確に分かるように構成を考えて文章を書いている。	資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して書く。B(1)エ
		古文を声に出して読んでみよう	・古文を読んで内容の大体を知り、言葉の響きやリズムを味わいながら音読する。	3	-	○			○	【関】古文の言葉の響きやリズムに関心を持ち、味わおうとする。【言】古文の内容の大体をつかみ、言葉の響きやリズムを楽しみながら音読している。	古文を音読をする。伝国ア(ア)
		敬語を適切に使う	・敬語の種類や役割を知り、適切な使い方を理解する。	2	-	○				○	【関】敬語に関心を持ち、役割や使い方を知ろうとする。【言】敬語の種類と働きを理解している。

2 学 期	10 月	5 物語のよさを解説しよう	注文の多い料理店	・物語の構成や表現の工夫を見つけて、作品の良さを解説することができる。	10	18	○	○	○	【関】物語のおもしろさの工夫を探しながら読もうとする。 【読】物語の構成を捉え、物語のおもしろさを生み出す優れた表現を見つけて自分の考えを解説文にまとめている。	物語の解説文を書く。C(1)エ ＜宮沢賢治トーク会＞
			不思議な世界へ出かけよう	・構成を考えて、場面の情景が伝わるように表現を工夫しながら筋道の通った物語を書く。	6		○	○	【関】想像したことをもとに物語を書こうとする。 【書】効果的な表現や場面展開を考え、構成をもとに筋道の通った物語を書いている。	物語を書く。B(2)イ	
		意味をそろえる言葉に目を向けよう 漢字の練習	・文に意味を添える言葉の働きや使い方を理解し、分にこめられた意味合いを捉える。	2	○		○	【関】副助詞の働きに興味を持って知ろうとする。 【言】副助詞に込められたニュアンスを理解して文の意味をとらえている。			
	11 月	6 和の文化について調べよう	和の文化を受けつぐ —和菓子をさぐる	・伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明する。	13	15	○	○	○	【関】和の文化について調べて説明するという目的を意識して文章を読み、進んで調べてみたい課題を探したり、資料の提示の仕方を工夫して話したりしようとしている。 【話聞】事柄が明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。	いろいろな本や資料を読んで調べたことを基にして、説明会を開く。A(1)イ
			熟語の構成を知ろう 漢字の練習	・二字熟語について、語の構成から意味を推測できることを知り、その方法を理解する。	2		○	○	【関】熟語に関心を持ち、意味や構成を知ろうとする。 【言】二字熟語の構成を理解している。		
	12 月	7 伝記を読んで、感想文を書こう	手塚治虫	・複数の伝記を読み、人物の考えや生き方について考えたことを文章に書く。	9	9	○	○	○	【関】伝記を読んで、生き方について考え、読書感想文にまとめようとしている。 【読】人物の生き方について考えるために、書き手の異なる複数の伝記を読んだり、ほかの人物の伝記と比べたりしながら読んでいる。	伝記を読んで、読書感想文を書く。 C(1)カ
			五・七・五で表そう	・言葉を吟味し俳句を作り、互いの俳句を鑑賞してそれぞれの感じ方の違いを伝え合う。	3	-	○	○	○	【関】定型詩のリズムに親しみながら、俳句や短歌を作ろうとしている。 【書】表現の効果について考え、工夫したり、修正したりしている。	季節を表す言葉から連想を広げ、俳句を作り友達と鑑賞し合う。B(1)オ

3 学 期	1 月		古文に親しもう	・古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	3	-	○				○	【関】昔の人のものの見方や感じ方に関心を持ち、現代の自分たちのものの見方や感じ方と比べようとする。 【言】古文を読んで、昔の人の季節に対する見方や感じ方を捉えている。	古文を音読する。季節感について文章を書く。伝国ア(イ)	
			伝えよう、委員会活動	・経験を振り返り、必要な情報を整理して、活動報告を書く。	8	-	○		○				【関】委員会の活動報告を、読み手の興味をひくように工夫してリーフレットの形にまとめようとする。 【書】自分の考えを明確に伝えるために図表やグラフなどを入れたい、関心をひくような見出しを付けるなど表現を工夫している。	委員会活動を報告するリーフレットを作る。B(1)イ <4年生へ委員会活動の紹介リーフレット>
	2 月	8 わたしたちとメディアの関わりについて考えよう	テレビとの付き合い方	・例と意見との関係に注意して筆者の考えを読み取り、自分の身の回りのメディアとの関わりについて考える。	8	13		○		○	○		【関】メディアとの付き合い方に興味を持ち、進んで文章を多面的に読んで、筆者の考えを踏まえながらメディアとの付き合い方に関する自分の考えを書こうとしている。 【読】図表や具体例が読者に与える効果を考えながら、筆者の考えを読み取っている。	文章を読んで、筆者の考えに対する自分の考えを書く。C(1)ウ
			六年生におくる字をすいせんしよう	・推薦するものの良さについて、聞き手が納得するように、構成を工夫して話す。 ・話し手が伝えたいよさについて、納得できるか考えながら聞く。	5			○	○					【関】推薦したい漢字の良さが伝わる話を進んでしようとしている。 【話聞】六年生に贈る字としてふさわしい漢字であることが伝わるように、話の構成を工夫して話している。
	3 月	9 朗読で発表しよう	大造じいさんとがん	・表現に着目して人物の心情を捉え、人物の心情が表れるように朗読する。	8	11		○			○		【関】強く印象に残った場面を選び、場面の状況や人物の心情を朗読で表現しようとしている。 【読】登場人物の相互関係を捉え、情景描写に着目しながら、人物の心情を読み取っている。	物語を朗読する。C(1)エ
			わたしの文章見本帳を作ろう	・書いた文章を読み返し、文章の種類や表現について話し合う。	3			○		○				【関】これまでに書いてきた文章を整理し、文章見本帳を意欲的に作成しようとしている。 【書】文章見本帳を交換して読み合い、表現の仕方に着目して助言し合っている。